

第一回津波避難計画研修会・津波防災連携訓練

津波からの避難や行動を検討しました

東日本大震災の発生を受けて、津波からの避難対策が大きな課題となっています。羽幌町は、道から津波避難計画策定のモデル自治体選ばれ、平成24年度中に計画を策定する準備をすすめています。12月21日、町民や道、町の関係者や通信、交通等の事業者や道北の日本海沿岸各市町村の担当者合わせて約80名が参加して、第一回津波避難計画研修会と津波防災連携訓練が道主催により中央公民館で開催されました。

研修会は津波を想定した 図上訓練で避難路を検討

津波避難計画研修会は、羽幌町防災ハザードマップに基づき、津波の際に浸水区域となる可能性が高いと想定される方面区にご案内し開催しました。

はじめに、旭川地方気象台の専門官による津波防災に関する講演。次に、北海道消防学校の講師の指導のもと、各方面区からの参加者22名が3つのグループに別れ、大きな地図を広げて図上訓練を行いました。津波が発生した際の町のイメージを膨らませ、避難路を話し合い検討しました。住んでいる地域の状況をもとに、地図を指差し「逃げるな

らこつちだ」などの声が続々とあがっていました。

行政機関・関係事業者は 津波の際の対処行動を確認

次の津波防災連携訓練では、参加者が見守る中、各機関、団体が津波が発生した場合、どのような対処行動をとるか、各代表者から発表、連携を確認しました。気象台、役場、消防、警察署、自衛隊、北電、N-T-T、留萌海上保安部、留萌開発建設部、留萌建設管理部、沿岸バス、沿海フェリー、そして、道庁危機対策局、留萌振興局と、順に14団体が発表。参加者のみなさんは、真剣な表情で聞き入っていました。

平成24年度中に計画策定

今後は、町の映像を見ながら更に詳しく避難行動の検討を実施。問題点を抽出して原案を策定し、「津波避難計画」を策定、公表します。

(注) 昨年3月に作成したハザードマップは、今後、道の津波浸水予想図の見直しに合わせて改定予定ですが、今回は、現ハザードマップを基に計画を策定します。

お問い合わせ

総務課総務係 ☎ 62・1211

参加者の声



第35方面区から参加した北川明さんは、昭和15年、小学1年のときに羽幌で津波を経験。「皆さんと話せてよかった。大変勉強になった」と話していました。



連携訓練では各団体が発表。関係機関が動き出すには時間がかかるので、自分の命は自分で守る判断力が必要と強調されました。



図上訓練の後、グループごとに、津波がきたら、まずなにをすべきかを発表。冬を想定した意見も出されました。



旭川地方気象台の森江秀昭専門官により、津波映像や羽幌町の過去の津波被害の情報、津波シミュレーションの映像が紹介。



図上訓練は、北海道消防学校藪本秀彦主任を講師に行われました。大きな地図にはハザードマップで示した浸水区域の表示があり、みんなで道路や河川にマジックで色づけをして、津波発生時をイメージして、話し合い、避難路を検討しました。